

2020 年 1 月 28 日

2019 年度聖路加国際大学大学院看護学研究科
修士課題研究

妊娠期における
DV スクリーニング陽性者に向けた映像教材の開発

Development of an Educational Video about Domestic
Violence to Support Pregnant Women Who Tested Positive
for Intimate Partner Violence

18MW011

田崎史子

論文要旨

【目的】周産期における DV は、母児の健康に重大な影響を及ぼす深刻な問題であり、医療機関では、妊娠中にスクリーニングの実施が勧められている。本研究は、DV スクリーニングで陽性と判定された妊娠期の女性が、暴力の構造やパートナーとの関係性、暴力が母子に与える影響、支援やリソースに関する情報の獲得を目標とした ICT による映像教材を作成し、妊婦及び専門家からの評価を得て、映像教材を洗練させることを目的とした。

【方法】研究デザインは映像教材の開発、評価研究である。先行研究および EBM の手法による周産期ドメスティック・バイオレンスの支援ガイドラインを基に試作版映像教材を作成した。試作版映像教材は所要時間を 10 分に設定し、①暴力の種類や構造、②周産期の DV が母児に与える影響、③DV への対処の 3 セクションで構成した。評価のためのインタビューは、妊婦、DV に関する支援者、研究者に対し、映像教材としての適切性、教材としての有用性、映像教材としての内容の適切性の 3 つの視点からの質問を行った。インタビューは、逐語録を作成し、評価項目に基づき内容を分析し、映像教材の完成に向けた具体的な改善点を明らかにした。なお、本研究は聖路加国際大学研究倫理審査委員会の承認を受けた(承認番号:19-A060)。

【結果】評価者として妊婦 5 名、DV 支援の実践を行っている助産師 3 名、DV に関する研究者 2 名、支援者 1 名にインタビューを行い、試作版映像教材について評価者全員から概ね良いという評価を得た。特に、受容性に関連した意見として妊婦が一人で学習を進められることによって支援の受け入れに伴う抵抗感が軽減されていることや、アニメーションを用いたことによって学習の受け入れと理解のしやすさにつながっているというものが多かった。また、有用性について支援者や研究者からは、試作版映像教材が伝えている情報量を口頭で伝えようとする 10 分で収まらないことや、伝え漏れが生じる可能性があり、端的に最低限の情報を網羅的に伝達できる点が評価された。一方で、映像教材としての内容の適切性の面で支援者より指摘があり、動画が対象者に与える可能性のある侵襲に配慮し、対象者が受け入れやすいように暴力に関連した表現や伝え方を工夫するという改善点が挙げられた。

【結論】DV スクリーニング陽性の妊婦が DV についての情報の習得を目的とした映像教材において、試作版映像教材は概ね良いと評価され、プロセス評価の段階では妊娠中に介入を始める DV 支援として用いることについての有効性が期待された。評価に基づき、修正点と改善点を明らかにし、映像教材を完成させるための示唆を得ることができた。